

障害学生が受講するオンライン授業における大学教員の評価

—授業形式や合理的配慮、障害学生の評価との関連—

○佐々木銀河* 藤原あや* 岡野由実** 山森一希* 鶴井孝大* 竹田一則*
(* 筑波大学) (** 群馬パース大学)

KEY WORDS: 大学、オンライン授業、合理的配慮

【目的】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020 年度より大学ではオンライン授業が行われるようになり、障害学生に対する合理的配慮も変化している。独立行政法人日本学生支援機構（2021）の全国調査によれば、障害学生の中でもオンライン授業を希望する学生もいれば、そうではない学生も存在しており、オンライン授業のアクセシビリティについて一層の研究が求められる。また、オンライン授業の実施者である授業担当教員を対象にオンライン授業の合理的配慮に関する調査は行われていない。

本研究では、障害学生が受講する授業の担当教員を対象にしたオンライン授業に関する調査を行った。調査を通して、授業形式やオンライン形態、提供した合理的配慮と教員側のオンライン授業の実施しやすさや今後のオンライン授業の希望の関連について明らかにする。

【方法】

＜調査時期＞2020 年 7 月に調査を実施した。なお、この時期に対面授業は行われず、全てオンライン授業であった。

＜対象者＞総合大学 X 大学で障害学生が受講した授業の担当教員（以下、教員）75 名を対象とした。

＜調査内容＞

●授業形式：担当した授業が講義形式であるか、講義以外の形式の授業（演習、実験、実習）であるかを聴取した。

●オンライン形態：担当した授業が「完全オンデマンド授業」、「完全リアルタイム授業」、「オンデマンド・リアルタイム併用授業」であるかを聴取した。

●提供した合理的配慮：「(1)資料データの提供（PDF）」、「(2)資料データの提供（編集可データ）」、「(3)文字（読み）原稿の提供」、「(4)図表等への代替テキストの付与」、「(5)試験時の点字出題・回答」、「(6)試験時間・課題提出時の時間延長」、「(7)講義動画への字幕付与・修正」、「(8)講義内容の録音・録画の許可」、「(9)チャット機能を利用した発言の許可」、「(10)講義内容の調整（指示語を減らす、文字情報を多くする等）」の 10 項目について提供の有無を聴取した。

●オンライン授業の実施しやすさ：対面授業との比較として、当該授業を対面形式で実施した場合の『実施しやすさ』を 5 点とした場合に当該授業の形式を 0～10 点の 11 件法で回答することを求めた。また、障害学生が受講しない他のオンライン授業との比較として、他のオンライン授業と比べた場合の『実施しやすさ』を 5 点とした場合に当該授業の形式を 0～10 点の 11 件法で回答することを求めた。

●今後のオンライン授業実施希望：障害学生が受講する場合、今後も当該授業をオンラインで実施したいかどうかについて「1: 全くそう思わない」から「5: とてもそう思う」までの 5 件法で聴取した。

●障害学生と教員の評価比較：Sasaki et al. (2020)における障害学生 27 名の調査データを用いた。この調査では障害学生が高評価した授業（好事例）と低評価の授業（課題事例）について、当該授業を対面形式で実施した場合の『受講しやすさ』を 5 点とした場合に当該授業を 0～10 点で回答することを求めた。障害学生と教員の対応づけが可能であった 18 件を使用した（好事例 11 件、課題事例 7 件）。

【結果】

＜提供した合理的配慮＞

提供した件数が多い順に「(1)資料データの提供（PDF）」が 22 件、「(7)講義動画への字幕付与・修正」が 14 件、「(6)試験時間・課題提出時の時間延長」が 13 件、「(8)講義内容の録画・録音の許可」が 12 件、「(2)資料データの提供（編集可データ）」および「(9)チャット機能を利用した発言の許可」が 11 件、「(3)文字（読み）原稿の提供」が 10 件、「(10)講義内容の調整」が 9 件、「(4)図表等への代替テキストの付与」が 3 件であった。

＜オンライン授業の実施しやすさ＞

対面授業との比較において、「(3)文字（読み）原稿の提供」（ $p < .05, r = .30$ ）を実施した授業では、対面実施時と比べて有意に実施しにくいと評価され、その他の配慮内容で有意な差はなかった。また、授業形式やオンライン形態について有意な差はなかった。

障害学生が受講しない他のオンライン授業との比較において、「(1)資料データの提供（PDF）」（ $p < .05, r = .26$ ）や「(3)文字（読み）原稿の提供」（ $p < .05, r = .30$ ）を実施した授業では、他のオンライン授業と比べて有意に実施しにくいと評価され、その他の配慮内容で有意な差はなかった。また、授業形式やオンライン形態について有意な差はなかった。

＜今後のオンライン授業実施希望＞

講義形式の授業の方が講義以外の形式の授業（演習、実験、実習）よりも、今後もオンラインで実施したいと思う程度が高かった（ $p < .05, r = .28$ ）。オンライン形態や提供した合理的配慮に関して有意な差はなかった。

＜障害学生と教員の評価比較＞

好事例 11 件では、障害学生の『受講しやすさ』の方が教員の『実施しやすさ』よりも有意に高かった（ $p < .05, r = .66$ ）。課題事例 8 件で有意な差はなかった。

【考察】

教員において「文字（読み）原稿の提供」を行う場合、オンライン授業の実施の困難さを感じる事が示された。また、「資料データの提供（PDF）」は、障害学生が受講しない他のオンライン授業と比べると困難さを感じる事が示された。教員における今後のオンライン授業の実施希望はオンライン形態や合理的配慮を問わず、授業形式により影響を受ける事が示された。さらに、障害学生が高評価の授業でも教員側は実施の困難さを感じる事が示された。

【文献】

独立行政法人日本学生支援機構（2021）令和 2 年度障害のある学生への修学支援における学生本人による効果評価に関する調査研究（JASSO プロジェクト研究）。

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/project/2020project_top.html

Sasaki et al. (2020) Research on New Methods of Learning for Students with Disabilities in Distance Learning. *Tsukuba Global Science Week 2020*.

(SASAKI Ginga, FUJIWARA Aya, OKANO Yumi, YAMAMORI Kazuki, TSURUI Takahiro, TAKEDA Kazunori)